

# 2020年 冬夏

## ヒキガエル観察記録

### 1. 主な結果

- 親ガエルの下山開始は1月23日ごろ。
- メスガエルの遺体が数体あった。一匹は産卵中に死んだと思われる。
- 2月1日 卵確認。
- 2月9日 孵化。
- 2月15日 水中でカエル合戦。
  
- 3月7日 水底にオタマジャクシ。
- 上の池にかなり大きなオタマジャクシの集団があったが、2、3日のうちに見えなくなった。コイが食べたと思われるが確証はない。来年に確認する必要あり。
- 5月14日 下の池、上陸開始。
- 昨年は、下の池の上流側で上陸するものが多く、そこにはヤマカガシが待ち構えていた。今年は下の池の上流側で上陸するものは少なく、下流側（排水口側）で上陸するものが多かった。ここで、ヤマカガシを見ることはあったが、待ち構えている様子ではなかった。今年は、仔ガエルが落ち込んだ林道の側溝で多くのヤマカガシを見た。
- 5月26日 2kmポストまでに、仔ガエルの数を800匹まではカウントしたが、それ以上はカウント不可能なほど多かった。
- 6月30日先頭登頂。上陸から47日目。
- 7月1日山頂で7、8匹確認。
- その後も山頂でカエルが確認された。
- 山頂から、鎖場を降りて、キャンプセンターに向かう仔ガエル確認。また、女道に向かう仔ガエルも確認。

### 2. 宝満山のカエルの童話

- 前田つとむ氏の第2作 「宝満山のカガシン」  
母親を亡くしたヤマカガシと登山者の交流の物語。ホームページに掲載。

### 3. カエルの「匂いの道」について

仔ガエルが山頂をめざす理由の一つの説として、「親ガエルや子ガエルが通った道に匂いが長年にわたって付けられ、また登山者が山頂まで、靴の底に匂いを付けた。仔ガエルはその匂いの道をたどっている」と言われている。

3合目と4合目の間に薬箱があるが、ここに新しい橋が2017年3月に設置された。

設置当初は、当然のことながら新しい橋の方に向かう仔ガエルはいなかった。登山者が匂いの道を付けているとすると、新しい橋を通る人が多いので、次第に新しい道の方に向かう仔ガエルが多くなると思われた。以下の数字は何回かにわけて観察した結果の総数である。

2017年の夏、新しい橋の方に向かう仔ガエルはゼロ。

2018年の夏、新しい橋の方向13匹、旧の橋の方向155匹

2019年の夏、新しい橋の方向4匹、旧の橋の方向9匹

2020年の夏、新しい橋の方向22匹、旧の橋の方向27匹

(薬箱付近で2時間ほど撮影していた2時間に、新しい橋の方向に10匹くらい、旧の橋の方向に2匹見かけた)

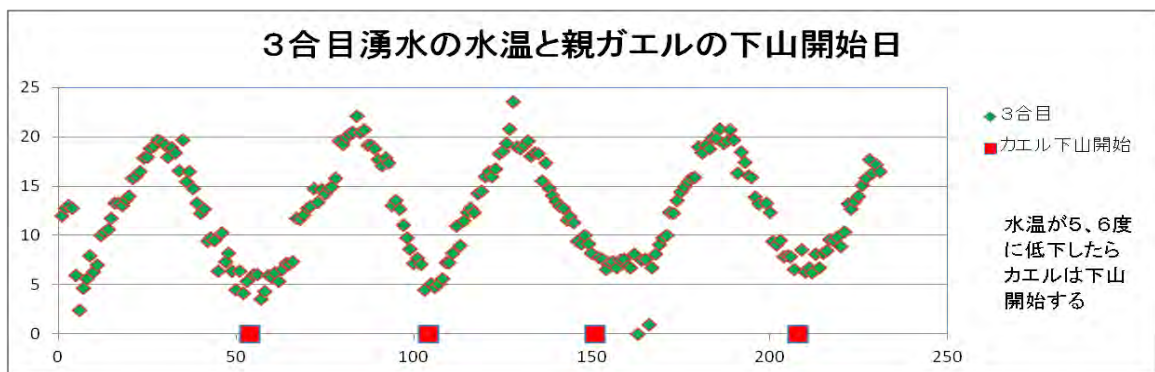
次第に、新しい橋の方に向かうカエルがあきらかに多くなったことが確認された。

### 4. 親ガエルの下山開始日と3合目の湧水「徳弘の水」の水温

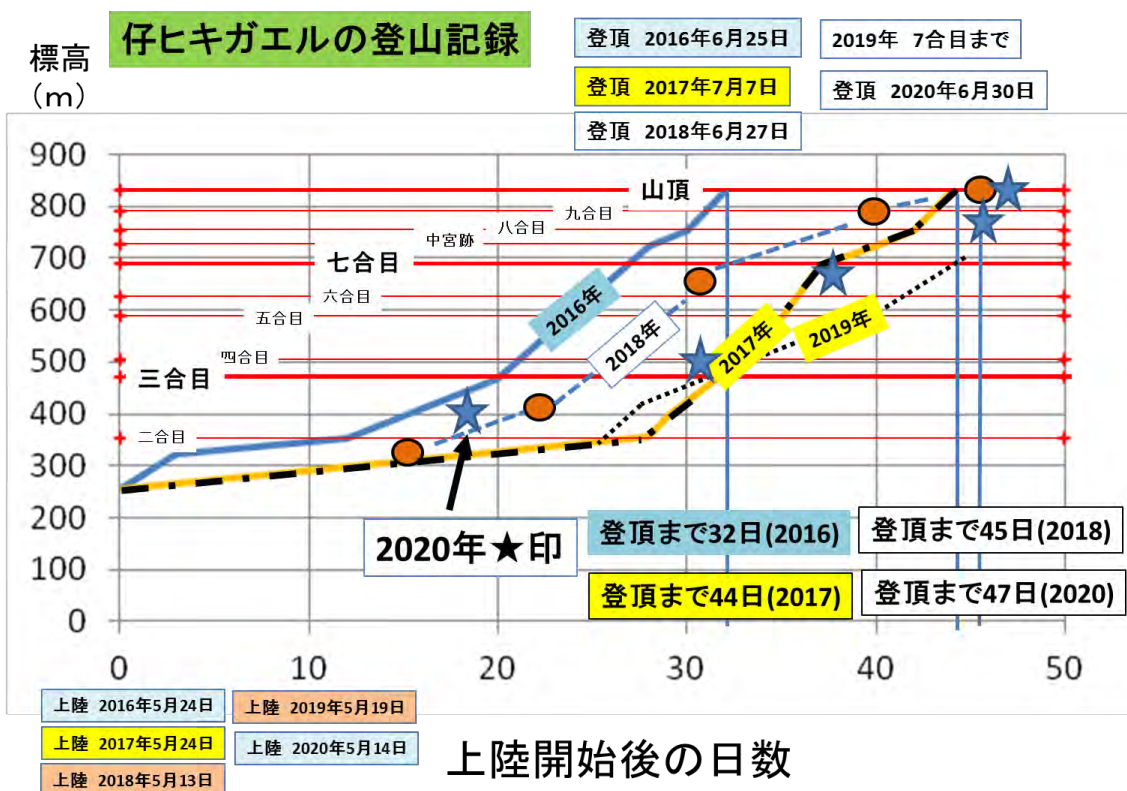
2015年11月から2020年7月5日までの水温の変化である。夏に高くなり、冬に低くなる。地下20cmの地温が7度になると、産卵のためにカエルが動き出すとの報告がある。2合目より低い所にいる親ガエルが池に向かうとすると(2合目より高い所から親ガエルが下山しているとの報告は今のところはない)、2合目は3合目より200mくらい標高が低いので、下山開始時の2合目付近の地温(水温)は6~7度になり、ほぼ一致する。

また、下山し産卵する頃から、水温(気温)も上昇し始め暖かくなる。

カエルの「生物時計」は正確である。



## 5. 2016～2020年までの仔ガエルの登山記録



## 6. 白いオタマジャクシ

白いオタマジャクシがいるように見えるのは、オタマジャクシがあまりにも多く、激しく泳いでいるために、ぶつかった衝撃で裏向きになったものである。オタマジャクシの腹は背中より白っぽい（川部さんの観察による）。

